

	全ての国及び地域からの動物性蛋白（肉骨粉等、飼料となる可能性のあるもの）については輸入を停止。		
10月9日	BSEスクリーニング検査の対象拡大の方針決定（厚労）	2002年 4月1日	24ヵ月齢以上の死亡牛の検査の実施（農水） 24ヵ月齢以上の死亡牛についてBSE検査を実施（地理的条件等により、実施が困難な場合を除く）。平成16年4月1日から完全実施。
10月17日	国民の不安を解消するという観点から、30ヵ月齢未満の牛も含めて、全ての牛をスクリーニング検査の対象とする。 特定危険部位の除去・消却を義務付け（厚労） 屠畜場法施行規則の一部改正により、以下を義務付け。 全ての牛の①頭部（舌及びほお肉を除く。施行後1年間は脳及び眼とする。）、②脊髄、③回腸の一部（盲腸との接続部分から2mまでの部分の除去・焼却。	7月4日	トレーサビリティの導入（農水） 牛肉の生産履歴が追跡可能とするため、全ての牛に標識（耳標）をつけ、牛一頭ごとの情報を記録、管理を行う体制を導入。
10月18日	BSE全頭検査の実施（厚労） 全国の食肉衛生検査所等において、食肉処理を行う全ての牛のBSEスクリーニング検査の一斉開始。 BSEサーベイランスの実施（農水） BSE検査対応マニュアルを判定し、農場における異常牛・死亡牛の届出のほか、疑似患畜や中枢神経症状を呈した牛のBSE検査の実施等のサーベイランスを実施。	2004年 1月15日 1月16日 9月6日	牛の脊柱の肥料・飼料利用の禁止（農水） 2004年5月1日より施行 牛の脊柱の除去（厚労） BSE発生国または、発生地域において飼養された牛の肉を、一般消費者に直接販売する場合は、脊柱（胸椎横突起、腰椎横突起、仙骨翼及び尾椎を除く）を除去しなければならない等。 2004年2月16日施行 内閣府食品安全委員会は、全頭検査の見直しを行なう。

(平成22年12月例会)

看護歴史研究におけるプランゲ文庫の意義

大石 杉乃

1. プランゲ文庫とは

第二次世界大戦後、日本はGeneral Headquarters Supreme Commander for the Allied Powers（連合国軍最高司令官総司令部、GHQ）の占領下に置かれた。GHQは1945年10月2日に設置された。これに先立って1945年9月21日にS. Army Forces in the Pacific（米国太平洋陸軍総司令部；GHQの前身）民事検閲部は日本政府に対し、10項からなる「日本出版法」の施行を指令した。この法律に基づき、日本国内で発行される図書、雑誌、パンフレット、新聞、ビラ、ポスター、写真などの出版物すべてが検閲の対象となった。

GHQ参謀第2部に属したCivil Censorship Detachment (CCD) は、1945年から1949年末の間に日本で発刊されたすべての出版物に対して検閲を行った。CCDが保管していた出版物は、アメリカ、メリーランド大学 Gordon W. Prange Collection

(プランゲ文庫) に保管されている。

プランゲ文庫には、1945年から1949年末までに日本で発行された新聞18,047タイトル、雑誌13,799タイトル、図書とパンフレット約71,000タイトル、報道写真約10,000枚、ポスター約90枚、地図約640枚、検閲関連文書約600,000枚が所蔵されている。

2. プランゲ文庫史料を用いた看護分野の研究

日本において「国立国会図書館法」により出版物納本制度（出版物の保管制度）が確立したのが1948年2月であるため、それ以前の出版物を調査するためには、プランゲ文庫の史料が必要である。著者は、文部科学省科研費基盤研究（C）の助成を受け、プランゲ文庫の現地調査を行っている。

現地調査に先立ち、国立国会図書館憲政資料室

のプランゲ文庫のデータベース，および山本武利ら作成の『占領期新聞・雑誌データベース』を用いて，調査する内容を精選している．また，調査対象の出版物が日本国内に所蔵されているか否かも調べている．

現地では，看護に関する雑誌，ポスター，ビラ，パンフレットリスト，および検閲文書を対象に調査を進めている．上述したように史料が膨大であり，かつ紙の劣化も進み，調査は時間との戦いと言っても過言ではない．

プランゲ文庫の史料を用いた研究は，思想，教育，童話分野では行われているが，医療および看護分野を対象とする研究者は著者しかいない．

3. 地方の組織が発刊した看護の機関誌

プランゲ文庫において，地方の組織が発刊した看護の機関誌5誌を発見した．第二次世界大戦後はじめて発刊された看護の雑誌（大阪府）は1946年7月の「保健婦事業」，保健婦協会北九州支部で1946年8月の「まごころ」，熊本縣保健婦協会文化部代表者福井京子で1947年6月の「保健婦」，埼玉県で1947年9月の「愛のひかり」，長野県保

健婦協会の1947年11月の「すこやか」であった．

その内容を分析した結果，以下のような事実を明らかにすることができた．

- 1) 地方における看護の機関誌は，5誌中4誌が保健婦により発刊されており，5誌ともGHQ看護課の影響を受けていた．
- 2) プランゲ文庫所蔵の機関誌5誌のうち「保健婦事業」は「看護」（日本看護協会；1949）の発刊とともに廃刊となり，「愛のひかり」は「看護」発刊後も1954年12月まで出版されていた．しかし，他の3誌は廃刊の時期が不明である．
- 3) プランゲ文庫に所蔵されている5誌のうち，『日本看護協会史1』（日本看護協会出版会；1967）に記録されていたのは「愛のひかり」のみであった．プランゲ文庫収集対象期間に発刊され，『日本看護協会史1』に記録されていたのは「愛のひかり」と「ともしび」（青森；出版年不明）であったが，「ともしび」はプランゲ文庫には所蔵されていなかった．

（平成22年12月例会）

書籍紹介

小野蘭山没後二百年記念誌編集委員会 編 『小野蘭山』

明治42年小石川植物園で蘭山没後百年の記念行事が開催され，『植物学雑誌』は第269号を蘭山記念号とした．蘭山没後二百年に当たる今年，記念式典やシンポジウムが行われ，京都府立植物園に「小野蘭山顕頌碑」が建てられ，記念誌として本書が刊行された．幅広い年代の著者26名が，多方面から蘭山にアプローチした論文25編，資料8編を収める約650頁の大著である．

巻頭は，門人・谷文晁が敬写した迫真の「小野蘭山肖像」，次いで植物画にも才能を発揮した蘭

山による『花彙』の挿図，肉筆の百合図，書が続く．口絵14の自筆『本草綱目草稿』は，蘭山が『本草綱目』の講義に用いたもの．袋綴じの折目目を切って裏面まで細かな文字でびっしり，朱墨で書き込み尽くす．ラテン語・ポルトガル語・オランダ語の植物用語や図も書き入れ，さらに補充・訂正を重ね，亡くなる直前まで使用したという．その遺稿から溢れる研究者としての情熱・気迫には圧倒される．

記念事業会会長の邑田仁氏は「序にかえて」で，